第２回庄原市立学校のあり方を考える会　会議録(概要)

日時　令和８年８月 27 日(木)18 時～19 時 55 分
場所　本庁舎　５階　第１委員会室

【出席者】

（委　員）　榊原会長、小原委員、宮本委員、福嶋委員、倉田委員、藤原委員、
早川委員、熊原委員、塩本委員、住岡田委員、森多委員、堀委員

（事務局）　牧原教育長、下森教育部長、森田教育総務課長、髙淵教育指導課長
天野総務係長、田辺学校管理係長、赤木学事係長、伊澤指導係長
藤岡主任主事

(18 時開会)

１．榊原会長挨拶
～事務局進行（教育総務課長）
２．教育長挨拶
３．出席者自己紹介(前回欠席者)
４．説　明（※資料１～資料４）
～進行役を事務局から議長(会長)に交代
（１）第１回会議の振り返り
（２）本会の全体の流れ
５．意見交換
６．その他
７．閉　会

	５．意見交換
会長	それでは「５．意見交換」に移ります。 意見交換のテーマについて、先ほど事務局から「全体の流れ」の説明で提案がありましたとおり、第１回のテーマのひとつ「子供につけさせたい力が育まれ通わせたい学校の姿」について、さらに深い意見交換を行うとよいと考えております。まずは、子供にどのような力をつけさせたいと思っているのか、そして、どんな学校に通わせたいのか、さらにそれに必要な学習環境などありましたらお願いします。委員の意見への追加など委員同士の意見交換も行っていただきたいと思っています。
委員	部活動についてです。子供は小学生の頃から好きなスポーツがあり、その部活動に入りたかったようですが、中学校では少人数で選択肢が限られていたことや、友達が他の部活に入部するということで、悩んだ結果、最終的には友達と一緒の部活に入部しました。今は部活動を楽しくしていますが、今でもやりたかった競技の動画を見たり、日本、世界の選手に詳しかったりと、やはり本当は入りたい思いがあったのではないかと感じています。親としては、人数が多ければ入部できたのかもしれないと思うのと、選択肢が少ないのは可哀想だと思いました。 また、上の子供は高校で念願だった部活動をしましたが、やはり中学校から経験してきた周囲の生徒との差があり、希望する役割がなかなかできないこともあったようです。少人数の良さもありますが、子供のことを考えると、選択肢が多い方が夢を叶えやすく、多くの道が開けますし、たくさんの友達と触れ合うことで、色々な意見に触れ、自分の考えをまとめることもできるので、切磋琢磨できる、そんな教育環境があればいいと思います。
委員	「子供につけさせたい力」に関連して、前回、SNS やスマホを平日１日２時間以上使用するとあり、それを続けていると学力が低下するというデータが示されていました。中学校でも対策をされていると思いますが、仙台市では、スマホを使用し続けると学力にどう影響するか具体的な数字のデータを生徒に見せ、生徒自身に今後の使い方を考えさせる授業を行われています。庄原市においてもそうした取組を参考に、自分で学力を下げないため、上げるためにどうすべきか、子供自らに考えさせる視点を取り入れて取り組んでいただきたいと思います。
委員	スマホの使用について、毎年生徒へアンケートや聞き取りをしていますが、現状は１日２時間どころか、３～４時間スマホを使用しています。各学校、中学校長会でも対策を模索しており、トラブルの事例に詳しい方や専門知識のある方を招いて、子供や保護者に直接お話をしていただく機会を設けています。かなりリアルな実情も含めて話をしてもらって

	いますが、まだ改善には向かっていない状況です。
委員	高校校内では電源を切り鞄に収めるよう指導していますが、現実的には帰宅後に相当な時間使用していると思われます。これと直接関係があるかは分かりませんが、子供達にはまだコロナ禍の影響が残っており、コミュニケーションを取るのが不器用だと感じています。小規模な学校から来る子供が多いのですが、そうした子供達の友達との接し方を見ていると、一定程度の規模の中で切磋琢磨できる環境があることは、子供達のコミュニケーション能力や社会性を身に付ける上で、大切だと感じることがあります。SNS は個人や一方通行でできることですが、対面では相手の表情を見ながら会話をすることになり、社会人として必要なスキルを身に付けることに非常に役立つと思います。そうした点からも、今の子供達は対面でのコミュニケーションが大変不器用だと感じています。
委員	市民アンケートで「学力をつけてほしい」という回答がありましたが、単に知識を得るだけなら学校でも塾でも配信授業でも様々な方法があります。しかし、学校は集団の中で人格形成をしていく場だと思います。子供同士でどう問題を解決し、どう折り合いをつけて、皆で楽しく過ごすか。それを日々繰り返して集団を作っていくことが学校の役割であり、それにはコミュニケーション能力が欠かせません。スマホやゲームなどに多くの時間を費やしている影響か、感情のコントロールができない時に、人が傷つき、悩み、しんどくなるような強い言葉しか出てこず、お互いの本当の思いを話し合うのが難しく、トラブルになることがよくあります。本当にそう思っているわけではなくても、どういう気持ちで相手に伝え、相手がどう感じているのかをお互いに話し合う、そうしたプロセスを日々繰り返す場所こそが、学校なのではないかと思います。
委員	比和中学校は全校生徒が 10 人を切っている状況です。私は学校運営委員として学校評価をするために学校へ行かせていただいていますが、学年に生徒が１人しかいないような環境では評価の難しさを感じます。タブレットを使えば自分の思いを表現することはできますが、表情を見るとどこか淡々としており、知識的な力はついていても、人とのコミュニケーションという点では希薄になっているのではないかと感じる場面があります。また、学年１人の体育の授業に先生２人が付いて授業をされている様子や１～４人という学年の状況をみて、地域の一部の方の声ではありますが、「何か可哀想じゃないか」という声もあります。一方で、一定規模のある学校では友達関係が多様で、体育の授業でもチームを変えて集団スポーツを行うことができます。小規模校でも工夫はされていますが、大人数の様々な人間関係の中で、課題を乗り越え、自分を奮い

	立たせる力を育むことも、子供達には必要ではないかと感じています。
会長	私が子供の頃は1クラス 53 名で、1学年に数人あるいは 1 人といった少人数の学校生活を経験したことがありません。実際のそうした授業や子供達の様子を見学させていただくことは可能ですか。
事務局	視察や見学を行うとなると学校側の都合もありますので、日程や方法等についてはこちらで調整し、対応させていただきたいと思います。
会長	お住まいの地域以外の状況も踏まえて現地を見ていただければ、今後の意見交換もより深まるのではないかと思います。
委員	学校関係者ではない立場からの意見になりますが、皆様のお話をお聞きして、部活動の少なさやコミュニケーション能力に関する課題を感じました。今も中学校に上がる時に、小規模校からきたお子さんは、大きい小学校の既にできているコミュニティになじめず不登校になる子がいるというお話を聞いたりしますので、人が多いメリットはすごくあるのではないかと思いました。また、私は小学校で関わらせていただいており、先週あったお祭りで、板橋小学校の児童にお化け屋敷を手伝ってもらいました。子供達が仕掛けや看板、チラシを考えてくれ、SNS や AI を駆使して、とてもクオリティの高いものを作って配布してくれました。そのおかげで、来場者数が去年の 300 人から倍の 600 人になり、バイタリティーがある子が多いと感じました。そういったところを共有し、より伸ばしていければ、「田舎だから」「人が少ないから」ではなく、個々の力が高い子が多いと思っているので、逆に庄原市は学習能力が高いと言われ、どんどん子供達は成長するのではないかと思いました。
委員	私には中学生の娘がいますが、小学校時代に人間関係で悩んだ経験があります。当時のクラスは女子が3人で、グループで上手くいかなくなったときに、孤立してしまいました。逃げ場がなく学校に行くのがしんどくなり、すごく悩んでいて、休ませたこともあります。その後、学校の統合があり人数が増えたことで新しい友達ができ、気分も変わって学校に通いやすくなりました。現在は一定の規模がある学校に通っており、人数の多い環境になりました。最初は合う子も合わない子もいましたが、色々な人と付き合う中で人間関係の作り方が上手になり、苦手意識のあった相手とも上手く話せるようになっています。人数が多くいることで、コミュニケーション能力や気持ちを整理する力が自然と身に付き、集団の持つ力を感じています。もし少人数のままだったら、どこかで登校できなくなっていたのではないかと感じます。また、少人数だと運動や芸術などの順位や関係性が固定化しがちですが、人数が多いと様々な特技を持つ子がいて、互いに良い刺激になっていると感じています。
会長	人数が多いことのメリットもあるかと思いますが、逆に少ない方が良

	いという意見もあるかと思います。いかがですか。
委員	人数が多い環境には活気やパワーがあると感じます。私自身は少人数の学校経験はありませんが、子供が小規模校に通っていた際は、静かで落ち着いた環境の中で教育を受けられており、そうした面は少人数ならではのメリットだと感じています。
委員	私自身は庄原小学校で育ち、我が子は小規模校に通い、統合を経験しました。一言でいえば、どちらにも良さはありました。小さな学校は本当に知らない世界でしたが、複式学級の中で異年齢の子供達が力をつけ合っていく授業を目の当たりにし、大変学びになりました。保育現場においても、1学年3人程度の小規模な集団では、集団での活動を行う際に足りない部分を大人がカバーしたり、他の保育所と合同で体験の場を作ったりしていました。今年、これまでの小さな保育所から大きな保育所に異動したのですが、子供達を見た時に、そのようなことをしなくても、子供同士でできるのを久しぶりに見ました。大人が安心の核にはなっていますが、例えば先生をびっくりさせてやろうとか、来ない間にこれをしたらどんな顔をするのだろうかみたいなことをします。しかし、大きい保育所だから自然とそうなるのではなく、そこには保育者側の配慮や保育の組立があり、ある時は全員での活動や小グループでの活動などを組み合わせ、様々な子供が力を発揮できるよう環境を整える配慮があってこそ生まれるものです。規模に関係なく、子供にとって、安心して居場所のある環境が必要です。規模が大きい場所にはパワーがあり、経験の幅も広がりますが、全員が前に出られるわけではなく様々な個性の子供がいます。そうした一人ひとりの個性が輝ける場所があることが大切だと感じています。
委員	SNSの問題は避けて通れないと感じています。子供に使用時間を守るよう指導しても、指導する親自身が常にスマホを手に取っている状況があります。仕事の電話などが時間に関係なく入ってくるため、子供から見れば「大人もずっと使っている」と映ってしまいます。また、スマホの正しい使い方に関する講習などで、SNSへの投稿がきっかけで重大な事件に巻き込まれた悲惨な事例などを提示しても、「そうなんだ」と、子供達にとっては「どこか他人事」のように受け止められます。スマホのない生活は考えられないのが現実です。私自身は年齢的にも使いこなせず、「そんなに使ってはだめよ」と言いながらも、実際には、孫に使い方を聞いているような状況で、指導の難しさを感じています。 また、私は子供達に学校でタブレットを持たせることは反対でした。これは文部科学省の考えではありますが、自然体験や生きる力を育むことが大切だと言いながら、一方で、デジタル端末を持たせれば、便利で

	楽な方に流れてしまいます。そういった文科省の考え方が分かりません。
会長	事務局から何かありますか。
事務局	SNS の問題については色々な議論がなされており、文部科学省の方と私達もそういう話もしました。結局、日本がどういう子供像を描いているのか議論をします。使い方やそこに自己規制が効くようになるまではどうか、一度飽きるまでやらせて、価値判断ができるようになればいいという意見もあります。現在タブレット使用については賛否両論があっても仕事や社会の中では使わざるを得ない状況もあるので、今からは子供達自身が使用法を学ぶ必要がありますが、世界的に見ても年齢制限の議論が起こるなど課題が出ているのも事実です。だからこそ、考えや気持ちを鉛筆で書き、筆圧のある字で自分の考えをまとめるような手書きの学びの価値も叫ばれています。また、ゲームばかりをしていた子が、読書を契機に一気に転換した事例や、スポーツ少年団活動に打ち込むことでゲーム離れができた事例、庄原市の豊かな自然の中で親子体験活動を楽しむことで、スマホ以外に喜びを見出した好事例もあります。そうした取組も積極的に紹介していきたいと考えています。PTA 研修もしていますが、数字的に見ると改善はされてはいません。「ルールを決めて持たせているのは、結局親だから最後は親の責任です」とまで言いますが、なかなか難しいのが実情です。引き続き取り組んでいく必要があります。
委員	私の子供はゲームもしますし、読書もします。スポーツ少年団にも通っており、何かがいけないということはないと思います。本人がやりたいことを親や学校がやらせてあげられる環境を整えることが一番大切だと考えています。子供は１人でいることが好きなので、統合前の小学校は、すごく楽しかったようで、少ない人数で１年生から６年生まで全員で休憩時間に外で遊んでいました。統合後は人数が増え、教室で給食を１人で食べて、食べ終わったら隅っこに行っています。可哀想というのではなくて、このやり方でコミュニティを過ごしてきたので、それでいいので、大人数がいいとも、少人数がいいとも私は思わないです。統合前はどちらかと言うと統合に反対でした。統合の決定をするのにすごく時間がかかって、準備期間も半年ですごく大変でした。統合先の小学校との交流はありましたが、統合の準備期間として、１年は必要だったと思います。大人数であることもそれはそれで素晴らしいことなので、その環境でその子をどのようにしてあげるのか、選択肢をその子のために選ばせてあげることも必要です。中学校が１校だけで選べないのは、仕方ないですが可哀想だと思います。小学校については指定校区の運用を柔軟にし、小規模な環境を好む子や保育所からの友達と同じ学校に通いたい子は選択できる仕組みがあっても良いのではないかという意見を聞

	くこともあります。
会長	小学校区は一定のルールにより決まっていますが、それをある程度柔軟に弾力的にできないかといったところですね。
委員	芸備線のあり方を検討する会があり、本校に備後落合方面から通学している生徒が1人おり、生徒の通学の利便性を検証するために、今日から9月中旬ぐらいまでタクシーが往路だけ出ます。学校までタクシーで送ってもらえたら、いやということはないと思います。また、170人を超える生徒の中で、自転車通学は20人程度で、公共交通機関を利用する生徒も一部はいますが、保護者による送迎がほとんどです。庄原市は面積が広いので、高校生は1人で何とかしなさい、ということもあるとは思いますが、小学生低学年や、遠方となると、様々な面で自治体、保護者の負担がかなり生じるだろうと思います。
会長	それでは、次に今日はどんな力をつけたいか、そのあたりの皆さんの思うことや学校のすべきことについて意見交換をしたいと思います。 アンケートの中で保護者が選択した回答で一番多かったのが、学力の定着向上が1位で、2位が豊かな心を育む活動でした。どんな学力を子供につけさせたいか、豊かな心を育む活動をどんなことを学校はすればいいのか、そのあたりのお考えがあれば、教えていただければと思います。やはりふるさとの学びを原動力として、人材育成することがありますので、その中で豊かな心を育むために、どんな活動をしたらいいか、ご意見いただければ幸いです。それ以外でも構いません。まず、この「学力の定着向上」について、事務局から何か意見や考えがあれば教えてください。
事務局	ここで言う「学力の定着向上」における「学力」とは、将来社会に出た時に求められる学力であり、これは学習指導要領の中でも述べられており、最近は「生きる力を育んでいく」というところです。ひと昔前は、教科書の内容を記憶し、ペーパーテストや偏差値で評価される「知識ベースの学び」が主流で、企業もそうした学力を重視して採用し、終身雇用の中で人材を育成する時代でした。しかし、今は時代が大きく変わってきています。この夏、教え子(40歳と38歳)に会う機会があり、話を聞くと転職している子がいました。自分に合った企業、自分が力を発揮できる場を求めて転職し、自己成長させていく価値観の中で今の世代は生きており、その子やその年代が、そうだったのかもしれませんが、自分が育った時代とは違うことを実感しました。話を戻しますと、今の時代は知識ベースの学びも大事ですが、それに加えてコミュニケーション能力や自身の考えを表現する力、新たな価値を生み出す「創造力」を高めていくことが、企業や社会の中で求められています。そうした中で、

	学校では、点数では測れない「非認知能力(相手を思いやる心や回復力、自制心、主体性など)」や新たなことを創造していく学びをどう育むかが重要です。多様な意見に触れ、必要な情報を自ら取得・解釈する力は、日本のみならず世界で求められている新しい学力観です。そうした力を育てる学びの形態として、全員で意見を交わす学習、1 人でじっくり考えを練る個人学習、3～4 人の小グループで議論を深めるグループ学習などがあります。状況に応じてこれらを柔軟に切り替える授業づくりを行うには、ある程度の集団規模(人数)がいればできます。高校や大学の入試でも面接や記述式が増え、自己表現力や思考力が学力として重要視されるようになっています。義務教育の段階から発達段階に応じて計画的にそうした教育課程を組み、適切な環境の中で学ばせていくことが必要と考えています。 　もう 1 点あります。「豊かな心」のことです。豊かな心の捉え方は凄く幅が広いものがあります。豊かな心の定義や育み方には様々ありますが、冒頭会長がおっしゃったように、庄原市は大変自然豊かなところです。私は庄原市以外で育ちましたが、そこは自然豊かというよりも、人数が多いところでしたので、休日や学校で林間学校に行ったり、スキー教室に行ったりすることはなかったです。そのため、都市部などではなかなかできない自然体験やスキー教室などの貴重な経験が庄原市には豊富にあります。こうした地域の良い資源を活用し、五感で味わい、慣れ親しむ中で子供達が感じるものを大切にする地域資源を活かした学習や情操教育が重要だと考えています。さらに、自然だけでなく、世代を超えて地域の人々と触れ合ったり、異なる地域の人と関わったりと、市全体を学びの場として取り組んでいくことが必要です。道徳の時間だけでなく、地域社会全体を通して学ぶ力が大人になっていく上で、重要なベースになると捉え、義務教育の段階から取り組んでいます。
会長	昔と今とでは学力観が随分違いますね。小学校 6 年生や中学校 3 年生を対象とした全国学力・学習状況調査も、ここ 10 年でかなり内容が変化してきていると思います。そうした点も含め、小学校現場のお立場からはいかがですか。
委員	事務局が言われたとおりで、付け加えるならば、学校では「目標に向かって粘り強く取り組む気持ち」や「恐れずに挑戦する気持ち」を育てています。また、様々な教科の学習や多様な人々との関わりを通して、自分自身の好きなことを見つけていくことや、苦手なことにも前向きに挑戦してみようとする気持ちを育むことなど、「豊かな心」に関わるか分からないですが、興味や意欲を持って主体的に学び続ける子供を育てていきたいと考えて、教育活動に取り組んでいます。

会長	学力面や「豊かな心」に関して、中学生は高校入試を意識していることもあり、アンケートでも関連する項目が77%と高い割合を示しています。庄原市としてどのように学力を育み、どのような形で豊かな心を育む活動を進めていくべきか、ぜひ皆様のご意見を伺えればと思います。
委員	「豊かな心」を育む上で、自然体験活動や栽培活動はとても有効な活動であると思っています。特に高野小学校では、小学校３年生でトマト、４年生で大根、５年生でりんごを自ら世話をして育て、収穫して味わい、最終的に道の駅で販売活動まで行う取組をしました。子供達はそうした一連の体験を積み重ねる中で、見えない学力「非認知能力」などの生きる力を大きく伸ばしていきました。普段の教室の学びだけでは得られない体験活動の仕組みや工夫によって、子供達が大きく成長する姿を目の当たりにしてきました。
委員	「豊かな心」で、まず子供が「明日も学校に行きたい」と思えるかが非常に重要だと感じます。登校したいという前向きな気持ちがあるかどうかで、どんな授業であっても受け止め方が変わってくるからです。そのためには、教員自身が元気で「明日も学校に行きたい」と思える環境かどうかが大きく影響すると思います。きついという問題よりは、全体の配置やバランスの問題だと捉えています。教育を提供する教員側が全力を発揮できる適正な人員配置になっているかはとても重要です。私自身の記憶でも、先生が元気で楽しそうに授業をされていた時は、授業を楽しく受けていた気がします。教員自身が健全で豊かな心で働ける学校環境こそが、子供達の学力向上や成長への大きなエネルギーになるのではないでしょうか。そうした観点からの学校や教員の適正配置についても、例えば、現状この地域の教員が不足している、といった具体的な課題があればご提示いただけると、今後の判断や検討の重要な材料になると考えています。
委員	自校のアピールというわけではありませんが、私の学校でも「明日も楽しみになる学校づくり」をビジョンに掲げています。学校の中で、最も多くの時間を使うのは授業ですので、まずは授業で自己実現できる、分かったと思える、友達と意見交換をして納得できた、もっと調べたいと思えるなど、授業が充実することが、明日も学校に行って先生と何々したいと思えるかなというところで掲げています。
会長	そうですね。大人でも行きたくないことはありますよね。「子供達の顔が見たい」「学校に行きたい」と思える教員であれば壁を乗り切れますし、子供達も自然と寄ってきます。一方で、不登校の生徒がいる現状もあり、学校でも様々な取組を進めていますが、学校単体ではなく地域全体で考えていくことが不可欠だと感じています。新聞記事を見ましたが、庄原

	市は自治振興区が結構バックで助けている気がします。部活動の地域展開をはじめ、地域全体の支えがなければ、学校だけでは対応しきれません。以前の小さな町単位ではなく、ふるさと庄原全体が一枚岩になって、手を繋がないと、それは達成できないのではないかと、未来の子供達のために必要だと思います。東広島市は広島県の縮図だと思っており、都市部、中山間地域、小中一貫校などがあり、考え方も地域に色々ありますので、それぞれの地域にあった考えが大切だと思います。あの地域によかったからこの地域にもいいというものではありません。そのためには、自治振興区なるものが支えていかないと未来の子供達のためにはならないと思います。「教育は夢であり、子供に夢を持たせること」だと考えています。日々発行される新聞に紹介される記事からは、色々なことがよく分かります。庄原もたくさんの記事が載っていますので、関心をもって見ると、活躍されていることが分かります。例えば、本日も口和の神楽の記事がありましたし、過去にはヒゴタイや青い池に関する記事もあり、ぜひ見たいと思いました。新聞に地域の記事が載ると地域も頑張れるし情報を見て、地域の人も足を運ぶことにもなります。これだけ素晴らしい豊かな自然と文化を持つ庄原市がひとつの輪になれば、子供はとても幸せだと思います。
委員	私はこれまでの勤務校により学校規模におけるそれぞれの良いところ、不十分なところを知っています。色々な課題が存在しますが、それが家庭なのか、学校なのか、人数に起因するものなのか、様々です。学校ではそれぞれの規模に応じた強みや良さを発揮できるよう、日々教育活動に取り組んでいます。 学力を伸ばすには自己肯定感を高めることが大切だと思っています。様々な学校行事や部活動で成功体験や失敗体験を重ねることで人間として成長し、それが学力における粘り強さにもつながっていきます。ただ、行事や部活動については、少人数ゆえの限界を感じる場面もあります。ただ、子供達はその場で目標を定めており、積み重ねた達成感は、学校の規模にかかわらず共通のものです。一方で、多様な人間関係を経験する点においては、人数の多い環境の方が合う、合わないなど、自分とは異なる様々なタイプの人と接することができ、社会性を学ぶ上でのメリットが大きいと感じます。あまりに小規模な環境である場合は、進学や地域・趣味のクラブチームなどを通じて多様性に触れる機会を補っていく視点も必要かと思います。部活動では様々な合同チームがあり、数年前は庄原中学校と東城中学校が合同でサッカーをしており、これは部活動の地域展開の問題でもあります。口和中学校の活動を見ると、数人で野球や陸上をしており、周りから見ると寂しさを感じますし、人数が多

	いとより向上できるのではないかと考えますが、その中でどれだけできるかを考えているので、他を羨むことはありません。ですが、子供達に必要な多様性を学ぶ視点から見ると、現状で言うと人数が多い方が多様性を知る機会があるかと思います。
委員	私はこれまで長く中学校の体育現場に関わっており、大変なこともたくさんありましたが、それ以上に子供達から多くの感動をもらっています。本当に毎日が楽しく、ワクワクしながら学校に通っています。やはり一定の人数がいる集団の中では、喜びも悲しみも数多く生まれ、それをみんなで共に味わい、分かち合うことができます。
委員	私は職場で中学生の職場体験を受け入れています。体験に来る中学生は体格もしっかりしていますが、最後に感想を聞くと「丸一日、立ち仕事をすることがこれほど大変だとは思わなかった」と言います。もちろん休憩をはさみながら職場体験をしてもらっていますが、ずっと立って仕事をすることは授業とは違った経験だと思います。子供は経験で身に付くことがあります。当初は受け入れる側も学校側も負担が大きく、どのような意味があるのかと思っていましたが、今は、子供達は一つでも多くの実体験を積んでこそ成長すると思っています。体験期間中の先生方の巡回や指導、最終日の生徒達の表情の変化を見ても、キャリア教育には非常に大きな意味がある大切なことだと思います。 学力については、義務教育が終わったときに、進学しても就職してもいいですが、高校に進学したいと思った時に、ある程度の学力がついていないと進路選択の幅が減ってきます。今は勉強するのがいやで、面白くないと思っていても、進路に間に合わなかったらいけないので、日頃から学力を積み重ねるのは必要だと伝えてほしいです。「校長が変われば、学校が変わる」という１冊の本がありますが、まさしくそのとおりだと思っていて、やはり先生の力というのは、すごく大きいと思います。私が小さい時は、いたずらをすると、「先生に言うよ」と親に叱られていました。今はそのようなことは言っておらず、昔に比べて家庭や地域における教員の影が小さくなっているように感じます。だからこそ先生方にはしっかりと指導力を発揮していただきたいです。そして、「豊かな心」を育むには経験しかないと思いますし、子供には１つでも多くの経験を積んでほしいです。
委員	皆様のお話を聞いていて、「経験」や「実体験」という言葉がすごく心に響きました。保育の現場はまさにその原点であり、生後間もない時期から手足を動かして物に触れる、話しかけたら答えてもらうといった体験を積み重ねて、保育所・幼稚園時代を過ごして小学校に上がっていきます。先ほどSNSのお話にもありましたが、最近は子供達が「知ってい

	る、知っている」と言うことが増えています。理由を尋ねると「YouTubeで見た」「ゲームで見た」とかそういうことが多く、知っていないけど、知っているという子がたくさんいます。色々な場所へ行ったり、保育所で体験したりする時に見せる「こういうことだったのか」という目の輝きは全く違うので、そういったときに得るものが本物の学びだと思います。そのため保育所では、自分の頭と体を使ってしっかり遊ぶことを日々しています。その中で、やりたいことができる、好きなことがあることが大事です。しかし、最終的にはそれを共感してくれる人、見守って言葉にしてくれる人の存在が不可欠です。小さな子供であっても大人であっても、自分がしていることを言葉で認めてもらったり、言葉を返してもらったりすることで充実感、幸せを感じます。子供は周囲で飛び交う言葉をそのまま吸収するため、本物の体験とともに温かい言葉が行き交う環境の中で、自己肯定感を育みながら大きくなってほしいと思います。
委員	先ほど職場体験のお話がありましたが、私ども幼稚園も中学校から生徒を受け入れ、３歳・４歳・５歳の各クラスの保育体験をしてもらいました。生徒達は先生の対応や園児との関わり方を非常によく観察しており、「３歳クラスではこう関わって、こうお話しするのが大切」「４歳クラスではトラブルの時にしっかり話を聞く」「５歳クラスでは園のリーダーとしての良さを見つける」など、1 歳ごとの違いを捉えて、最後にお手紙を書いてくれました。１日１つは良いところを見つけていこうと言って体験をしてもらい、１週間ではありますが、それぞれが自分なりに見つけていて、生徒達は学力がついたのではないかと見させていただきました。職場体験は大変有効な体験だと思います。
会長	このあたりでお時間がきましたので、本日の意見交換を閉めさせていただいてもよろしいですか。経験の話が良く出ていましたが、庄原市の学校の実際の様子を知るために事務局で訪問する学校を選んでいただくことは可能ですか。
事務局	本日のお話を聞いていますと、子供が少ない学校と一方で子供がたくさんいる学校を見てもらった方がいいと感じています。
会長	学校はお任せしますが、私もその状況を経験していませんので、何校か選んでいただいてよろしいですか。
事務局	学校を視察するとなると子供達がいる昼間の時間帯になりますので、実際の活動の様子をご覧いただいた上で、その後の会議については、場所も含めて検討させていただきます。
会長	それでは意見交換を終了させてもらいます。